

1. 文楽人形の衣裳に関する研究は殆んど皆無でその上、古い衣裳は大半焼失しており僅かに焼け残った衣裳も舞台観賞用にむかないとの見地から散逸してしまっているので現在公演に使用されている衣裳について調査し、文献による歴史的考察と併せて研究、体系づけてゆきたいと考えた。

2. 大阪朝日座において上演される文楽公演を鑑賞後、出演人形の個々にわたって、その衣裳をスライドに収め楽日以後に脱がせた衣裳の調査をしてこれまでに蒐集したスライド 400 枚とともにこれを資料として服飾面と縫製面から研究をつづけている。

3. さきに人形衣裳の時代考証がほとんどなされていないことについてのべたが更に世間の常識をも打破して

舞台効果をあげることに専念していることは白装束一つをみてもうなずかれる。即ち曾根崎心中におけるお初の死出の装束には遊女の色気を多分にみせた紅の重ねや伊達巻に誇張しているが、これは菅原伝授手習鑑の松王丸と女房千代の白装束が白一式であることから単に舞台効果のみをねらったものではなく、遊女のあでやかさをみせているものと考えてよい。加賀見山旧錦絵にみられる尾上の白装束は白一式であるからこそ無念の自害をして果てた尾上に一段と凄みを加えて舞台効果をあげたものであろう。